

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語				数学				理科
	1年時	2年時	3年時		1年時	2年時	3年時		3年時
			A	B			A	B	
H30入学 現1年	68.5 (0.99)				65.2 (0.97)				
H29入学 現2年	67.5 (0.99)	55.7 (0.94)			62.4 (0.91)	50.0 (0.93)			
H28入学 現3年	66.6 (0.97)	57.5 (0.99)	74.0 (0.99)	57.0 (0.97)	66.3 (0.91)	49.0 (0.90)	62.0 (0.97)	41.0 (0.93)	61.0 (0.95)
H30 正答率の全国比			(0.97)	(0.93)			(0.94)	(0.87)	(0.92)

◎ 1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎ 「H30 正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

国語については、前年度に比べて2年が0.05ポイント下がっているが、3年については、県平均とほぼ同じ程度で推移している。数学については、どの学年も県平均に比べて下回っているが、2・3年は、年を経るごとに上昇している。理科については、県平均より0.05ポイント下回っている。

〈学習状況調査において県を上回ったところ〉

国語：「活用」に関する問題では、県の平均を下回っているが、「知識」に関する問題の「書くこと・書く能力」において県の平均を上回っている。

数学：「知識」に関する問題では「図形領域」が、「活用」に関する問題では「関数領域」が、それぞれ県の平均を上回っている。

理科：「領域別」では、いずれも県平均を下回っているが、問題別に見ると、知識・理解を活用する問題において平均正答率が高くなっている。

〈学習状況調査における課題〉

国語：「書くこと」であっても、条件が複雑であったり、煩雑であったりする作文を苦手としている。

文章を読み取り、趣旨をまとめる力をつける必要がある。

古文に関して指導の工夫が必要である。

数学：各単元における「知識・理解」を問うような問題ができていない。用語の意味や単位の変換、小数・分数の計算、割合など基本的な内容の指導が必要である。

ほとんどの問題で、無回答率が高い。

理科：「知識・理解」の観点において、県との正答率の差が大きい。

「地学領域」(年度末の定期テストの範囲以後の内容)が、正答率が悪い。

〈意識調査（生徒質問紙）において県を上回ったところ〉

質問内容	本校	県	結果から見えてくるもの
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。	85.1%	80.9%	自尊感情が強く、行動の活力となっている。 家庭での生活は、学習面以外で、落ち着いた生活ができています。
自分には、よいところがあると思う。	81.6%	78.8%	
テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る。	88.6%	86.3%	
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	79.4%	77.4%	
人の役に立つ人間になりたいと思う。	97.1%	95.7%	

〈意識調査（生徒質問紙）における課題〉

質問内容	本校	県	結果から見えてくるもの
地域社会などでボランティア活動に参加したことがある。	43.3%	56.6%	地域の活動への参加が消極的である。 宿題以外の家庭学習が十分ではない。教科書等を使っての予習・復習など自主学習の指導が必要である。
今住んでいる地域の行事に参加している。	36.9%	48.3%	
自分で計画を立てて勉強をしている。	40.4%	51.8%	
地域や社会をよくするために何をすべきかを考える。	32.6%	39.5%	
予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習をしている。	71.5%	75.0%	

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

【国語】

- ① 条件を設定した短文づくりや、短作文の練習をしたり、横書きの原稿用紙を使ったりした、作文指導に重点的に取り組む。
- ② 長文の要旨をまとめさせる際に、穴埋めのワークシート等を活用する。
- ③ 古文の学習の後、応用問題を取り入れた授業を展開する。

【数学】

- ① 小学校の学習内容も確認しながら、丁寧に指導する。
- ② 数学用語等の定着に、ペア学習を取り入れる。
- ③ 説明をするときは、口頭で説明するだけでなく、きちんと書くように指導する。
- ④ それぞれの単元に入るときは、必ず前学年に学習した内容、とくに用語など「知識・理解」に関する内容の復習を丁寧に行う。

【理科】

- ① 小テストを活用し、「知識・理解」に関する内容を確実に押さえていく。
- ② 「地学領域」の復習テストを実施するなど、年度末の学習内容を充実させていく。

【全教科】

- ① 各授業で、ひき続き学び合いや話し合い活動を推進していく。話し合い活動の後には、必ず個人に振り返りをさせ、自分のことばでまとめたり、発表したりする時間や場の設定を増やしていく。
- ② 全教科で研究授業を実施し、授業研究会、教科部会を充実させ、授業づくり、指導方法の改善・充実に努める。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ①区長会と連携し、地区行事を把握する。部活動においても地区行事優先で参加させ、地域住民の指示のもと、生徒に任せられる手伝いなど積極的な活動を促す。
- ②学年集会等を利用して、家庭での時間の活用についてのアンケート結果を示すなどして、学習時間とスマホ等の時間について考えさせる。また、テスト前などには、家庭にもアンケート結果を知らせ、「家庭のルール」作成を呼びかける。
- ③ 「武中ダービー」(全校一斉朝の小テスト) については、「勉強も面白い」と感じさせる課題を与えるなど、より進化した「武中ダービー」にしていく。
- ④ 定期テストの前には「プレテスト」を実施し、出題形式等を教科部会で協議し、改善していく。
- ⑤ 各授業で指示する「宿題」について、必ず次時の導入で使う・生かす手段について検討し、家庭学習や授業の改善につなげていく。

今回の調査結果を踏まえ、学校ではこれまでの取組を点検・検証し、必要な改善を加えながらPDCAサイクルの充実を図り、基礎・基本のさらなる定着と活用力を高めるための指導方法の改善を推進していきます。これまで以上に保護者や地域の方の協力を得ながら、学校・家庭・地域が連携しあって子どもたちを育てていけるよう話し合いを進め「子どもたちの夢を形にできる教育」の支援体制をつくります。

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語				数学				理科
	1年時	2年時	3年時		1年時	2年時	3年時		
			A	B			A	B	
H30入学 現1年	66.6 (0.96)				67.4 (1.00)				
H29入学 現2年	68.9 (1.01)	64.3 (1.09)			70.2 (1.02)	64.8 (1.20)			
H28入学 現3年	67.4 (0.98)	63.1 (1.09)	80 (1.07)	66 (1.12)	66.6 (0.91)	58.9 (1.08)	71 (1.11)	47 (1.07)	68 (1.06)
H30 正答率の全国比			(1.05)	(1.08)			(1.07)	(1.00)	(1.03)

◎ 1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎ 「H30 正答率の全国比は、全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【学力・学習状況調査】

(1) 1年生は、数学は県平均とほぼ同等ですが、国語は県平均を下回っています。

国語では、本校の平均正答率 66.6%で、県平均を 2.9 ポイント下回っています。

- ・ 観点別では、県を 1.00 とすると、「知識・理解・技能」が 1.00 で県平均と同じで、他の3観点は「話す・聞く」が 0.98、「書く」が 0.86、「読む」が 0.87 と県平均を下回っています。
- ・ 領域別では、「漢字の読み」、「漢字の書き」の領域で、県平均を上回っています。しかし、「話す・聞く」、「書く」、「読む」、「語句に関する知識」の4領域で県平均を下回っています。
- ・ 設問別でみると「相手が読んで理解しやすいように、より良い表現に書きなおす」問題は、県平均に対して本校の正答率は 20.9 ポイントも下回り、「自分の立場を明確にして、理由をあげながら話す」問題でも、県平均に対して本校の正答率は 19.9 ポイント下回るなど半数以上の問題で県平均を下回りました。また、無解答率も県平均を上回りました。

今後は、根拠をもって自分の考えを書いたり、接続詞の働きについて文章を書く場面で実際に使いながら復習したりすることが必要です。

数学では、本校の平均正答率は 67.4%で、県平均を 0.3 ポイント上回っています。

- ・ 観点別では、県を 1.00 とすると、「知識・理解」が 1.08 で県平均を上回り、他の2観点は、「考え方」が 0.94、「技能」が 0.98 と県平均を下回っています。
- ・ 領域別では、「数と計算」、「図形」の領域で県平均を上回っています。しかし、「量と測定」、「数量関係」では、県平均を下回っています。

- ・設問別でみると、「円周の長さの求め方を理解している」問題では、本校の正答率は県平均を 28.6 ポイント上回り、「1 に当たる大きさを求めるために、除法が用いられることを理解している」問題では、16.6 ポイント県平均を上回りました。
- ・「柱状グラフの特徴を理解している」問題では、本校の正答率は県平均に対して 16.1 ポイント下回っています。また、「縮図上の長さから実際の長さを計算で求めることができる」の設問では、本校の正答率は県平均に対して 16.8 ポイント下回っています。
 今後は、「考え方」の観点で県平均を下回っていますので、活用に関する問題に積極的に取り組む必要があります。

(2) 2年生は、国語及び数学とも県平均を上回っています。

国語では、本校の平均正答率は 64.3% で、県平均を 5.2 ポイント上回っています。

- ・ 昨年 12 月実施の学習状況調査では、県平均を 1.5 ポイント上回っていましたので、更に向上しています。
- ・ 観点別では、県を 1.00 とすると、「書く」が 1.31、「話す・聞く」が 1.19、「読む」が 1.08 と県平均を大きく上回っています。「漢字の書き」のみ 0.90 で下回りました。
- ・ 領域別では、「漢字の書き」のみ県平均を下回り、「語句に関する知識」の 1 領域が同等でそれ以外の 4 領域で大きく県平均を上回っています。
- ・ 設問別でみると、「自分の考えを根拠を明確にして書く」問題は、県平均を 33.3 ポイント上回り、「伝えたい事柄について効果的に記述する」問題では、22.4 ポイント上回っており、問題の 70% で本校正答率が県平均を上回っていました。しかし、「文脈に即して漢字を正しく書く」問題の（精密）や（敬う）を書くでは、17 ポイント以上下回り、（養蚕）を書くでは、本校正答率は残念ながら 0%（県 14.2%）でした。
 今後は、自分の考えを文章に書くときに、的確な根拠を示しながら条件に合わせて書けるようにしたり、構想メモを活用して書く練習をしたりすることが必要です。

数学では、本校の平均正答率は 64.8% で、県平均を 11.0 ポイント大きく上回っています。

- ・ 昨年 12 月実施の学習状況調査では、県平均を 6.7 ポイント上回っていましたので、更に向上しています。
- ・ 観点別では、「見方や考え方」、「技能」、「知識・理解」の 3 観点全部で県平均を上回り、県を 1.00 とすると、特に「見方や考え方」が 1.55 で県平均を大きく上回りました。昨年より、更に全観点で向上したことが分かります。
- ・ 領域別では、「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」の 4 領域全部で県平均を上回り、特に、「関数」が 1.30、「資料の活用」が 1.26 と県平均を大きく上回っています。
- ・ 設問別でみると、全 32 問中 31 問の本校正答率が県平均を上回り、「正の数と負の数の計算をすることができる」問題と「空間における直線と直線との位置関係を理解している」問題では、本校正答率は 100% でした。ただ、「二つの図形の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明することができる」問題の 1 問のみが 11.4 ポイント県平均を下回りました。
 昨年よりも更に学力が定着してきたと思われます。今の調子で予習、授業、復習に集中して取り組む必要があります。

(3) 3年生は、国語 A、B 及び数学 A、B、理科の 5 区分すべてで全国平均及び県平均を上回っている。

ます。Aは主として知識に関する問題で、Bは主として活用に関する問題です。

なお、今年度は、学校及び都道府県の平均正答率は、整数値で公表されています。

国語Aは、本校の平均正答率は80%で、全国平均を3.1ポイント、県平均を5.0ポイント上回っています。

- 領域別では、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の全領域で、本校正答率は全国や県の平均を上回っています。
- 設問別でみると、「場面に当てはまる語句の意味として適切なものを選択する（ハナイカダ）、「漢字を読む」の（技を磨く）、「『韓非子』の中の語句の訳を抜き出す」の（いはく）の問題で本校正答率は100%でした。しかし、「段落の内容を入れ替えて書き直す理由として適切なものを選択する」問題、「（心を打たれた。）を文末に用いた一文を、主語を明らかにし、誰（何）のどのようなことに（心を打たれた）のかが分かるように書く」問題が、全国や県よりも低くなっていますので、今後力を入れて取り組む必要があります。

また、無解答率は全32問中29問で0%であり、全国や県よりも低く、どのような問題にも粘り強く解答したところは素晴らしいところです。

国語Bでも、本校の平均正答率は66%で、全国平均を4.8ポイント、県平均を7.0ポイント上回っています。

- 領域別では、4領域のうち、「話すこと・聞くこと」と「読むこと」は全国平均をそれぞれ、7.7ポイント、5.7ポイント上回っていますが、「書くこと」と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、全国平均、県平均ともに下回っています。
- 設題別でみると、「目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く」問題の本校正答率が、全国や県平均よりも低い11.1%、「相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く」問題も本校正答率が47.2%と低い正答率ですので、記述問題に力を入れる必要があります。

今後は、漢字に関しては意味も確かめながら正しく書く練習をすることや、条件を正しく読み取って答える力をつけるために、条件を付けた問題に積極的に取り組むことが必要です。

数学Aは、本校の平均正答率は71%で、全国平均を4.9ポイント、県平均を7.0ポイント上回っています。

- 領域別では、「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」の全4領域で全国平均を上回っており、特に領域1の「数と式」では、約10ポイント全国・県平均を上回りました。学習したことが身に付いていると思われます。
- 設問別では、「等式の性質を用いて式を変形する」問題で本校正答率は75.0%で全国平均を26.8ポイントも上回りました。しかし、本校正答率が全国・県平均を多くの問題で超えている中、平均を下回っている問題もいくつかあります。例えば、「一元一次方程式を解く際に、用いられている等式の性質を選ぶ」問題では、全国平均を22.3ポイント、「比例定数aの意味を理解できているかを問う」問題では、全国平均を12.7ポイント下回るなど、改善していくことが必要です。

数学Bでも、本校の平均正答率は47%で、全国平均を0.1ポイント、県平均を3.0ポイント上回っています。

- ・ 領域別では、「資料の活用」で全国平均を上回りましたが、それ以外の「数と式」、「図形」、「関数」の3領域では全国平均をやや下回りました。
- ・ 設問別では、「グラフから列車のすれ違いが起こる地点の道のりを求める」問題では、本校正答率が91.7%で全国平均を14ポイント上回りました。しかし、「はじめの数としてどんな整数を入れて計算しても、計算結果は4の倍数になることを説明する」問題については、本校正答率が19.4%で、全国平均を18.1ポイント下回りました。

今後は、計算などの技能の習得だけでなく、数学用語を正しく使って表現する学習を積み重ねていくことが必要です。また、事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明することや問題解決の方法を数学的に説明するような活用問題に取り組むことが必要です。

理科でも、本校の平均正答率は67%で、全国平均を1.9ポイント、県平均を2.0ポイント上回っています。

- ・ 領域別では、「物理的領域」と「科学的領域」で全国平均を上回りましたが、それ以外の「生物的領域」と「地学的領域」では全国平均をやや下回りました。
- ・ 設問別では、「風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用できる」問題、「炎の色と金網に付くススの量を調べる実験を計画する際に、「変えない条件」を指摘できる」問題、「アルミニウムは水の温度変化に関係していることについての新たな問題を見いだすことができる」問題では、本校正答率は全国平均より10ポイント以上上回りました。

しかし、「神経系の働きについての知識を身に付けている」問題では、本校正答率が33.3%で、全国平均を23.9ポイント下回りました。また、「太平洋高気圧の特徴についての知識を身に付けている」問題でも、全国平均に対して14.5ポイントも下回っていました。

今後は、地学領域で地震の揺れの伝わる様子や緊急地震速報の仕組みなどを、実社会との関連を踏まえた実感を伴う知識を身に付けることが必要です。また、グラフの書き方にも課題がありますので、表からグラフを作成する際の注意点を確認点してください。

(4) 生徒意識調査

※1・2年生は5月に公表された県集計の数値を使っています。3年生の場合、全国と県の数値が似ていましたので、県平均を中心に比較して分析しています。

学力と関連する項目について、以下のような結果が得られました。

- ① 「学校の宿題をしている。」では、「している」の割合が、本校1年生は93.8%、2年生は91.7%、3年生は80.4%と各学年とも県平均（3年は全国平均も）を上回る高い数値でした。家庭においてきちんと宿題が行われていることが分かります。今後とも、家庭で宿題を含めた学習についての呼びかけにご協力をお願いします。
- ② 「学校の授業時間以外の普段の勉強時間」では、「2時間以上」学習している割合が、1年生12.5%（県21.8%）、2年生44.0%（県25.6%）、3年生が41.7%（県27.6%）でした。2・3年生は県平均（3年は全国平均も）大きく上回り、家庭学習が習慣化していることがわかります。ただし、1年生は2時間以上は県の平均よりも少ないのですが、1～2時間の割合は多くなっています。3時間以上頑張っている生徒は、全学年で県よりも少ない状況です。
- ③ 「授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っている」では、「そう思う」の割合が、1年生21.9%（県45.9%）、2年生60.0%（県44.4%）、3年生が41.7%（県32.8%）でした。2・3年生は、県平均を上回っていますが、1年生は大きく下回っており、授業における言語活動に一層力を入れてい

きたいと考えています。

- ④ 「将来の夢や希望を持っていますか」では、「そう思う」の割合が、1年生 68.8%（県 62.9%）、2年生 52.0%（県 42.6%）、3年生が 47.2%（県 43.6%）でした。全学年とも県平均よりも上回っていますが、学年が上がるにつれて将来の夢や希望を持った生徒が減っていますので、今とは逆の割合になるように学習指導と進路指導にさらに力を入れます。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- 全国・県の学習状況調査に係る校内研修を行い、全職員で結果を分析し、結果から本校の課題を洗いだし、共通理解のもと授業の改善を図ります。
- 次期学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善についての研修を深め、全教科で講師を招聘して研究授業を行い、「分かる授業」をめざして授業力の向上に努めます。
- スマイル学習を推進した協働学習や言語活動をテーマにした西部型授業を行います。
- 効果的な ICT 利活用についてさらなる可能性を探ります。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- 家庭学習の充実
家庭学習の時間を毎日調査し、月ごとに集計して掲示を行います。宿題提出率調査や頑張っている生徒の自主学習ノートを紹介・掲示をするなどの取組も行います。
- e ライブラリの活用
タブレット端末を活用し、週に4日、朝の時間を活用して全校で取り組むことで、基礎学力の定着や授業時間の活性化を図ります。
- 放課後等補充学習（北中タイム）の充実
9月以降に補充学習を行うことで、基礎学力の定着と学習習慣の確立を図ります。
- 表現力の向上
帰りの会で「一分間スピーチ」や「授業の振り返り」を行い、自分の言葉で発表する機会を増やし、表現力の向上をめざします。
- 中1ギャップ解消
若木小と武内小の6年生に対して、「出前授業」を3学期に5回（5教科）程度ずつ行います。また、両小学校に中学3年生が出向いて読み聞かせを行い、スムーズな中学校への入学をめざします。
- 読書の推進
週4日、朝読書を継続して行うとともに、幅広いジャンルの本に親しめるように、本の紹介や読み聞かせを行います。

参考として各学年の詳細な教科別の分析結果及び意識調査の結果をお知らせします。

以下「全国学力・学習状況調査」（3年生）及び「佐賀県小・中学学習状況調査」（1、2年生）を、それぞれ「全国調査」、「県調査」と呼びます。また、「意識調査」とは、児童生徒質問紙調査を指します。

なお、3年生の全国調査における教科別の分析や意識調査の集計結果の数値は、国よりも先に県で集計された結果（5月中旬）で分析していますので、国語、数学がA問題、B問題に分かれていないことや、8月下旬に公表された国の集計数値と若干異なる項目があることをご了承ください。

ただし、下記3の「教科に関する調査結果の概要」に示している平均正答率は国で公表された数値です。

1 調査実施日及び方法 平成30年4月17日（火） 全数調査（全員が対象です）

2 調査の対象学年 ※A：主として知識に関する問題、B：主として活用に関する問題

	全国調査	県調査
3年	国語A及び国語B、数学A及び数学B、理科、意識調査	
2年		国語、数学、意識調査
1年		国語、数学、意識調査

3 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国調査の平均正答率（今年度は都道府県及び学校の平均正答率は整数値で公表されています。）

		国語A	国語B	数学A	数学B	理科
3年	本校	80	66	71	47	68
	県	75	59	64	44	64
	全国	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1

(2) 県調査の平均正答率

		国語	数学
2年	本校	64.3	64.8
	県	59.1	53.8
1年	本校	66.6	67.4
	県	69.5	67.1

4 学年別の分析

1年生

(1) 県調査：国語

○県と比較してよかった点

・領域別にみると、「知識・理解・技能」では、県平均を0.1ポイント上回る71.3でした。特に「漢字の読み・書き」に関しては、県を1.0とすると「漢字の書き」1.05、「漢字の読み」1.03と県平均を上回っています。

○県と比較してよくなかった点

- ・正答率でみると、県 69.5 に対して本校 66.6 と 2.9 ポイント下回っています。また、無解答率は県 3.4 に対して本校 4.5 と 1.1 ポイント上回っています。
- ・領域別でみると、県を 1.0 として「話す・聞く」0.97、「書く」0.86、「読む」0.87 で、「知識・理解・技能」以外すべて県平均を下回っています。
- ・「自分の立場を明確にして、理由を挙げながら話す」という問題で、県平均を 19.9 ポイント下回りました。話し合いの様子を記した文章を読み、話し合いの中の意見に賛成か反対かを示し、その理由を記述する問題でした。理由を書く条件として、「交流会で行う活動の二つの条件をふまえて」とありました。「二つの条件」は話し合いの冒頭、司会者の発言にはっきりと書かれていました。しかし、そこから条件にふれて理由を書いていない解答が多く見られました。
- ・「相手が読んで理解しやすいように、よりよい表現に書き直す」問題で、県平均を 20.9 ポイント下回りました。長い一文を、意味を変えないでつなぐ言葉を入れて二文に分けて書く問題で、多くの生徒が二文に分けているものの、接続詞ではない「なので」を用いていました。

(2) 県調査：数学

○県と比較してよかった点

- ・本校正答率は 67.4、県正答率は 67.1 と、ほぼ同等です。
- ・評価の観点別で見ると、「知識・理解」が県より 0.08 ポイント上回っています。
- ・県正答率を上回っている設問は 7 問中 6 問であり、内容・領域別で見ると、「数と計算」「図形」が県正答率よりやや上回っています。

○県と比較してよくなかった点

- ・評価の観点別では、「考え方」は県より 0.06 ポイント下回っています。県正答率を下回っている設問は 5 問中 3 問であり、特に「単位量あたりの大きさに着目して、二つの数量の関係を考える」問題が 14.1 ポイント下回っています。
- ・「技能」は県正答率とほぼ同率でしたが、県正答率を下回っている設問が 15 問中 10 問ありました。
- ・領域別では、「数量関係」が県よりやや下回っており、問題（単元）によって理解が十分なところとそうでないところがあると考えられます。

(3) 意識調査

○県と比較してよかった点 ※ () 内の左側の数値が武雄北中、右側が県平均

- (1) 学校に行くのが楽しいと思う。(75.0% : 県 66.2%)
- (4) 人の役に立つ人間になりたいと思う。(81.3% : 県 73.8%)
- (32) 社会の勉強は好きだ。(43.8% : 県 33.5%)
- (34) 理科の勉強は好きだ。(50.0% : 県 40.3%)
- (39) 理科の授業の内容はよくわかる。(59.4% : 県 47.7%)
- (41) 国語の授業で学習したことは将来社会に出たときに役に立つ。(84.4% : 県 69.5%)
- (42) 社会の授業で学習したことは将来社会に出たときに役に立つ。(65.6% : 県 58.6%)
- (46) 読書は好きだ。(53.1% : 県 42.7%)
- (66) 朝食を毎日食べている。(96.9% : 県 84.5%)

○県と比較してよくなかった点 ※ () 内の左側の数値が武雄北中、右側が県平均

- (6) 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だと思う。(9.4% : 県13.4%)
- (7) 友達と話し合う時、友達の話や意見を最後まで聞くけていると思う。(43.8% : 県51.4%)
- (18) 学校の授業の予習をしている。(9.4% : 県20.8%)
- (19) 学校の授業の復習をしている。(21.9% : 県27.0%)
- (20) 苦手な教科の勉強をしている。(21.9% : 県30.1%)
- (23) 授業では、生との間で話し合う活動をよく行っていると思う。(21.9% : 県45.9%)
- (28) 数学の勉強は好きだ。(21.9% : 県33.2%)
- (38) 数学の授業の内容はよくわかる。(34.4% : 県45.2%)
- (55) 数学の授業で公式やきまりを習う時、その根拠を理解するようにしている。(34.4% : 県49.3%)
- (65) 電子黒板やパソコンを使った授業を受けるのは楽しみだ。(40.6% : 県60.9%)

2年生

(1) 県調査：国語

○県と比較してよかった点

- ・本校の平均正答率は64.3で、県平均の59.1を5.2ポイント上回りました。
- ・県平均を上回っている設問数は、全31問のうち20問でした。
- ・領域別では、県を1.0とすると「話す・聞く」1.18、「書く」1.30、「読む」1.08で、「知識・理解・技能」以外は上回っています。

○県と比較してよくなかった点

- ・正答率でみると、県を1.00とすると本校は「知識・理解・技能」0.98で、若干ではあるが観点別で唯一県平均を下回りました。
- ・「文脈に即して漢字を正しく書く」問題では、(1)の「精密」では県平均を18ポイント、(3)の「敬う」では県平均を17.7ポイント下回りました。また、この二つの問題に関しては無解答率も高く、(1)の本校の無解答率は24.0%、(3)に至っては全31問のうち最も高く、32.0%でした。
- ・「文の成分について理解する」問題では、県平均を10.0ポイント下回りました。文章中の「ふいに」がどこを修飾しているのかを一文節で答える問題でしたが、修飾・被修飾の関係が定着していないと考えられます。また、二文節で書き抜いている解答もあり、文法の理解・定着の不十分さとともに問題の条件の見落としも今後の課題に感じました。

(2) 県調査：数学

○県と比較してよかった点

- ・平均正答率は64.8で、県平均の53.8を11ポイント上回っており、県平均を上回っている設問数は、全32問のうち31問でした。
- ・評価の観点でみると、「見方や考え方」「技能」「知識・理解」のすべての領域で県平均を上回っており、領域別でも、すべての領域で県平均を上回っています。
- ・「具体的な事象における数量の関係を捉え、比例式をつくる」問題については、正答率が60%で、県平均29.6%を30.4ポイント上回っており、十分達成できています。
- ・「与えられた情報をもとに、 x と y の関係が反比例である理由を説明する」問題については、正答率

が68%で、県平均39.8%を28.2ポイント上回っており、十分達成できています。

- ・「図形」領域のなかでは、「空間における辺と辺がねじれの位置にあることを理解できているかを問う」問題では、県平均83.1%に対して、本校の正答率は100%でした。

○県と比較してよくなかった点

- ・領域別では「図形」「資料の活用」の領域で、十分達成に届きませんでした。
- ・「図形」では、「図形の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明することができる」問題では、正答率が低く、県平均23.4%に対して、本校は12%で、11.4ポイントも下回っています。
- ・評価の観点でみると、「考え方」を問う問題では、県の平均を15ポイント以上上回ってはいないものの、十分達成には届いていません。

(3) 意識調査

○県と比較してよかった点 ※ () 内の左側の数値が武雄北中、右側が県平均

- (1) 学校に行くのは楽しいと思う。(64.0% : 県50.2%)
- (4) 人の役に立つ人間になりたいと思う。(76.0% : 県67.3%)
- (5) 将来の夢や目標をもっている。(52.0% : 県42.6%)
- (7) 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができていると思う。
(56.0% : 県43.8%)
- (17) 学校の宿題をしている。(91.7% : 県79.6%)
- (19) 学校の授業の復習をしている。(62.5% : 県24.6%)
- (23) 授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思う。(60.0% : 県44.4%)
- (26) 授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う。
(36.0% : 県23.2%)
- (32) 社会の勉強は好きだ。(76.0% : 県31.5%)
- (37) 社会の授業の内容はよく分かる。(48.0% : 県35.5%)
- (46) 読書は好きだ。(56.0% : 県40.9%)
- (58) 理科の授業で、自分で考えたことを図や文で表したり、友達と話し合ったりしている。
(40.0% : 県26.0%)
- (63) 「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つ。
(64.0% : 県42.9%)
- (64) 「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。(64.0% : 県32.9%)
- (76) 今住んでいる地域の行事に参加している。(84.0% : 県28.4%)

○県と比較してよくなかった点 ※ () 内の左側の数値が武雄北中、右側が県平均

- (6) 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だと思う。(8.0% : 県13.7%)
- (21) テストで分からなかった問題や間違えた問題についてやり直しをしている。
(20.0% : 県31.5%)
- (31) 英語の勉強は好きだ。(12.0% : 県29.7%)
- (45) 英語の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つ。(52.0% : 県63.5%)
- (65) 電子黒板やパソコンを使った授業を受けるのは、楽しみだ。(36.0% : 県47.5%)

3年生

(1) 全国調査：国語

○県と比較してよかった点

- ・国語Aは、本校の平均正答率 80%で、全国平均 3.9 ポイント、県平均を 5 ポイント上回っています。
- ・全ての領域で全国平均、県平均を上回っています。特に、「読むこと」は県 74.2%、全国 76.7%に対し、本校の平均は 84.7%と大きく上回っています。
- ・問題形式では、短答式の平均点が 81.6%と県の 73.6%、全国の 74.7%と比べても高い結果でした。
- ・問題別にみると、「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える」問題について県、全国に比べて 15 ポイント以上も上回りました。
- ・これまで課題のあった漢字の読み、書きについては、ほとんどが県、全国の平均を上回りました。
- ・国語Bでも、本校の平均正答率は 66%で全国を 4.8 ポイント、県平均を 7 ポイント上回りました。
- ・「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域で県と全国の平均を上回り、「登場人物についての説明として適切なものを説明する」問題の正答率が高く、県や全国の平均を大きく上回りました。

○県と比較してよくなかった点

- ・「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」問題では県、全国の平均正答率を下回る問題が多く、中でも特に「彼はせきを切ったように話し始めた」という問題で、適切な語句を選択することができた解答が少なく、県、全国ともに正答率が低かったが、本校の平均も 27.8%ととても低い結果でした。
- ・領域別では「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で県、全国の平均正答率に及びませんでした。
- ・別では「目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く」問題で正答率が非常に低く、県の 13.7%、全国の 13.3%に比べても本校は 11.1%と低い結果でした。

(2) 全国調査：数学

○県と比較してよかった点

- ・平均正答率は 71 で、全国平均 66.1、県平均 64 を上回っています。
- ・設問別では、全国平均を上回っている設問数は、全 36 問のうち 26 問でした。
- ・評価の観点でみると、「技能」「知識・理解」のどちらの観点も、全国平均を上回っています。また、領域別でも、すべての領域で、全国平均を上回っています。
- ・特に、「等式の性質を用いて式を変形する」問題については、正答率が 75%で、全国平均の 48.2%を 26.8 ポイントも上回っており、十分達成できています。
- ・数学Bでは、平均正答率は 47%で、全国平均 46.9%、県平均 44%を上回っています。
- ・特に、「グラフから列車のすれ違いが起こる地点の道のりを求める」問題については、正答率が 91.7%で、全国平均の 77.7%を 14 ポイントも上回っており、十分達成できている。

○県と比較してよくなかった点

- ・数学Aでは、「一元一次方程式 $6x - 3 = 9$ を解く際にもちいられている等式の性質を選ぶ」問題については、正答率が 41.7%で、全国平均の 64.0%を 22.3 ポイントも下回っています。
- ・「比例 $y = ax$ における比例定数 a の意味を理解できているかを問う」問題については、正答率が 52.8%で、全国平均の 65.5%を 12.7 ポイントも下回っています。
- ・数学Bでは、全国平均を 2.8 ポイント下回っており、「図形」「関数」領域ではほぼ同程度でした。

(3) 全国調査：理科

○県と比較してよかった点

- ・平均正答率は 68.0%で、全国平均の 66.1%、県平均の 64%を上回っており、特に、「活用」に関する問題は 69.0%で全国平均の 64.9%を大きく上回っています。
- ・評価の観点の「自然事象への関心・意欲・態度」「科学的な思考・表現」では、ともに全国や県の平均を上回っています。
- ・無回答率は、全設問で全国・県の平均を下回り、解答する意思が見られました。特に記述式の設問全 6 問で無回答率は、全国平均を下回り、かつ正答率は全国平均を上回っていました。

○県と比較してよくなかった点

- ・「知識」に関する問題は 65.0%で県平均と同等であるものの、全国平均 67.9%を下回りました。
- ・領域別では、「地学領域」で県平均・全国平均を下回っています。特に、地震に関する基本的な知識や地震の揺れの伝わり方などでの正答率が低いことがわかりました。
- ・評価の観点では、観察・実験の技能、自然事象についての知識・理解では、それぞれ 65.3%、66.7%で県平均は上回るものの全国平均 67.0、68.7 を下回りました。

(4) 意識調査

○県と比較してよかった点 ※ () 内の左側の数値が武雄北中、右側が県平均

- (4) 学校の規則を守っている。(本校 71.4、県 55.7)
- (5) いじめは、どんな理由があってもいけないことだ。(本校 88.9、県 83.5)
- (6) 人の役に立つ人間になりたい。(本校 77.8、県 73.6)
- (12) 授業の予習・復習をしている。(本校 25.0、県 15.3)
- (26) テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか。(本校 66.7、県 48.5)
- (28) 数学の勉強は大切だ。(本校 69.4、県 48.4)
- (33) 数学の授業で学習したことは、将来社会に出た時に役に立つ。(本校 55.6、県 37.9)
- (37) 解答で言葉や数、式を使って説明する問題で、最後まで解答を書こうと努力しましたか。
(本校 86.1、県 55.0)
- (51) 解答を文章で書く問題について、最後まで解答を書こうと努力しましたか。
(本校 86.1、県 62.7)

○県と比較してよくなかった点 ※ () 内の左側の数値が武雄北中、右側が県平均

- (7) 朝食を毎日食べている。(本校 80.6、県 81.5)
- (35) 理科の勉強は好きだ。(本校 13.9、県 28.2)
- (36) 数学の授業で、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている。
(本校 27.8、県 44.9)
- (39) 理科の勉強は大切だ。(本校 25.0、県 30.5)

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語				数学				理科 3年時
	1年時	2年時	3年時		1年時	2年時	3年時		
			A	B			A	B	
H29入学 現1年	65.6 (0.94)				62.2 (0.93)				
H28入学 現2年	70.8 (1.03)	64.8 (1.10)			72.4 (1.06)	55.1 (1.02)			
H27入学 現3年	65.2 (0.95)	55.3 (0.95)	70.0 (0.93)	53.0 (0.90)	61.8 (0.85)	42.2 (0.78)	54.0 (0.84)	33.0 (0.75)	55.0 (0.86)
H30正答率の全国比			(0.91)	(0.87)			(0.82)	(0.70)	(0.83)

◎1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率(%)、下段()は県平均を1としての比較。

◎「H30正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

○学習状況調査の結果から見える実態

- ・1年生においては、国語、数学ともに県平均を下回っている状況です。国語においては、「知識・理解・技能」と「話す・聞く」領域は「おおむね達成」を上回っています。「書く」「読む」の領域は「要努力」の達成状況のため、さらに指導に力を入れていきたいと考えています。数学においては、「数と計算」領域で「おおむね達成」を上回っています。しかし、その他の領域は「十分達成」の状況です。また、「活用」に関する設問では「要努力」の達成状況のため、さらに指導に力を入れていきたいと考えています。
- ・2年においては、国語、数学ともに県平均を上回っている状況です。国語においては、全ての領域において「十分達成」の状況です。しかし「読む」「漢字の読み」「語句に関する知識」の領域に課題があります。数学においては、「見方や考え方」が「要努力」の状況で、課題があります。今後より一層、少人数・TTのよさを活かして、支援の充実を図りたいと考えています。
- ・3年生においては、国語、数学、理科全てで県平均を下回っている状況です。特に、国語A・国語Bともに、「書くこと」に課題があります。数学では、「関数」「資料の活用」に課題があります。理科では、「自然現象への関心・意欲・態度」「知識・理解」に課題があります。国語、理科では基礎的・基本的な知識・技能の習得に向けた指導の充実を図りたいと考えています。数学では、今後より一層、少人数・TTのよさを活かして、支援の充実を図りたいと考えています。

○意識調査の結果から見える実態

- ・授業に関しては、学習の「めあて」や「まとめ」が授業の中で示されていた、ノートにきちんと「めあて」や「まとめ」を書いていたと答えた生徒の割合は県平均より高かったものの、学習内容を振り返る活動が上学年になるほど充分でない状況があります。今後、改善していきたいと思ひます。

・学習習慣については、自分で計画して学習に取り組んでいる割合は全学年とも県平均より高い傾向にあります。しかし、宿題については、1年生は100%していると回答していますが、3年生については「どちらかといえばしている」まで含めても県平均より低い状況です。内容については、復習を中心とした学習を行っている状況です。

・将来の夢や目標をはっきり持っている生徒の割合は上学年のなるほど低くなる傾向があります。また、「人の役に立つ人間になりたい」と思う生徒の割合は2年生では高いものの、1・3年生は県平均を下回っています。様々な体験の不足から自分に自信が持てず、人前で自分の考えを説明したり、文章に書いたりすることを苦手としているようです。

・普段（平日）、1日あたりスマートフォンやゲーム機を使ってゲームやインターネット、SNSなどを1時間以上している生徒の割合が高く、家庭と連携した指導が必要です。

・朝食摂取については、2年生においては県平均より低く、家庭と連携して指導を行う必要性があります。

・生徒と地域との関わりが強く、地域行事に多くの子どもたちが進んで参加しています。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・授業に集中して取り組むよう、生活習慣や学習規律、学習環境の整備を継続していきます。
- ・授業の導入時に基礎基本的な内容の定着を図るために前時の復習を行います。
- ・西部型の授業を意識し、生徒に見通しを持たせ、「めあて」と「まとめ」を大切に授業実践に取り組みます。また、生徒が学習の流れが分かるような板書を心がけます。
- ・本校生徒が苦手としている「自分の考えを他人に説明したり、文章に書いたりする」場面を授業の中に設定し、「話す・聞く」「書く」など言語活動の充実に取り組みます。
- ・生徒の興味・関心を高めたり、資料活用能力を育成したりするために、電子黒板やタブレット等の積極的利用を図っていきます。そのために職員のICT利活用能力の向上を目指します。
- ・全職員で生徒の実態を把握、共有し、すべての教科で課題解決に向けた取り組みを行い、年間最低1回以上の研究授業・授業研究会を実施して、教師の指導力の向上を図ります。
- ・確かな学力の定着と向上を図るため校内研究に取り組み、新学習指導要領に向けた準備及び指導方法の改善を図ります。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・学びの学習会を実施し、タイムマネジメント・自主学習の在り方などを学習させ、家庭学習の習慣づけや内容の充実を図ります。また、定期テスト等を活用し、振り返りを行わせ、家庭での時間の使い方について考えさせます。
- ・月曜から木曜まで、帰りの会前の15分間でタブレットを活用した「スタディサプリ」を実施し、自分のつまづきに合った課題に取り組ませ、学力向上を図ります。
- ・「各教科の学習の仕方」に関する冊子を作成し、学級活動などで取り扱い、学習規律の徹底や学習に対する心構えを育てます。
- ・年間2回のQ-Uアンケートを行い、生徒の実態を把握し、学級経営の改善、生徒への支援方法の改善に取り組みます。また、アクティブ・ラーニングの基礎となる指示的風土の醸成を目指し、学級活動や帰りの会などで、グループエンカウンターなどに取り組み、仲間づくりを進めます。

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語				数学				理科
	1年時	2年時	3年時		1年時	2年時	3年時		3年時
			A	B			A	B	
H30入学 現1年	70.2 (1.01)				63.1 (0.94)				
H29入学 現2年	63.6 (0.93)	49.1 (0.83)			68.6 (1.00)	51.2 (0.95)			
H28入学 現3年	67.9 (0.99)	59.8 (1.03)	76.0 (1.01)	60.0 (1.02)	67.6 (0.95)	53.4 (0.98)	63.0 (0.98)	46.0 (1.05)	63.0 (0.98)
H30 正答率の全国比			(0.99)	(0.98)			(0.95)	(0.98)	(0.95)

◎ 1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎ 「H30 正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

本校の生徒の実態として、よい結果(◎)、良いとは言えない結果(△)で、以下のようなものがあげられた。

- ◎ 1年生は「学校の宿題をしている」と答えた生徒が県の平均を大きく上回っている。
- ◎ 2・3年生は「学校の授業時間以外に普段、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか」の問いに対して、1時間以上行っている生徒の割合が県の平均を大きく上回っている。
- ◎ 2・3年生で「数学(理科)の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つ」と答えた生徒が県の平均を大きく上回っている。
この結果から、学習状況や意識調査に差はあるが、学年ごとに学習に対して前向きに取り組んでいる生徒が多いことがわかる。
- △ 「活用」に関する問題において、県平均に比べて、1・2年生で「要努力」の項目が多く、2・3年生で無回答率が高いなどの課題が見られた。
- △ 数学において、全学年「図形」「資料の活用」に関する問題で、県平均を5～8ポイント下回っている。
- ◎ 3年生の国語は、特に「読む」「知識・理解・技能」の定着と成果が見られ、県平均を上回り、「十分達成」のレベルであった。
- △ 「電子黒板やパソコンを使った授業を受けるのは楽しみだ。」と答えた生徒は、県平均より若干低い。

これらのことより、課題に根気強く取り組み、論理的に表現することを苦手としている生徒が多く、既習事項を活用して学習を深めたり、自分の考えを再構成して表現したりすることなどが、発展的な学習に結びついていない傾向にあることがわかる。また、ICT機器の環境が整っている学校であるが、普段から使い慣れているせいか、生徒の活用意識はあまり高くないことがうかがえる。

- ◎ 2年生においては、昨年度と同様「将来の夢や目標を持っている」と答えた生徒の割合が高い。
- ◎ 地域の行事に参加していると答えた生徒は、全学年とも県の平均を大きく上回っている。

◎ 携帯電話やスマートフォンの所持率が低い。

◎ 1年生の部活動への参加率が高い。

地域や仲間とのつながりがあり、部活動に意欲的に取り組み、自己実現に向けて目標をもち、のびのびと生活している様子が見える。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・ 基礎学力の定着と学力差の拡大に対処するため、英語・数学のチームティーチングでのきめ細かい指導による学力向上を目指す。
- ・ 1時間1時間の授業が、学力の積み重ねと発展的思考力につながるように、授業の「めあて」と「まとめ」を明確にし、学習のポイントを生徒に理解させる授業を行う。そして、主体的で対話的な深い学びの実現を図るため、他者との関わりを重視した授業づくりを行う。そのため、昨年度から、研究委嘱を受けている「活用力向上研究指定事業」により、小中連携を図りながら指導方法のあり方等の研修をさらに推進させる。
- ・ タブレットや電子黒板の活用で、視覚的な提示ができ、学習効果は上がっている。また、スマイル学習やスタディサプリを用いて、生徒それぞれの課題に応じた学習に取り組ませ、主体的で効果的な学習の支援を行っている。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・ 立腰教育、凡事徹底、学習規律の徹底等、これまでの取り組みを継続して、学習に取り組むやすい環境をつくる。さらに、保護者との連携を図り学習意欲の更なる向上につなげる。
- ・ 学校生活全般への意欲を高めるために、生徒に役割と出番を与えるなどの開発的生徒指導の実践を行う。生徒会活動を推進し、計画性があり主体的な活動を支援するとともに生徒の自治力を高め、さらなる活性化を図る。
- ・ コミュニティスクールの取組により、地域の方を「マナー検定」「掃除検定」「戦争を聞く会」「地域学習」「郷土料理体験」等の講師として招き、幅広い知識や教養を身につけさせ、郷土を誇りに思う生徒を育成する。さらに、地域行事に積極的に参加させ、地域のなかでも社会性を身につけさせるようにする。このように各種講演会や総合的な学習を通して、人間形成に役立つキャリア教育・情操教育を推進する。
- ・ 学校だより、学年だより等により、学校の様子等を発信して啓発を図る。家庭との連携を図りながら家庭学習の定着に取り組むとともに、地域のサポーターの支援による放課後学習会（長期休業中、平日放課後に実施）を実施し、補充・補完学習を行う。

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語				数学				理科
	1年時	2年時	3年時		1年時	2年時	3年時		3年時
			A	B			A	B	
H30入学 現1年	67.2 (0.97)				65.2 (0.97)				
H29入学 現2年	67.2 (0.98)	64.6 (1.09)			67.3 (0.98)	56.0 (1.04)			
H28入学 現3年	64.6 (0.94)	54.1 (0.93)	74 (0.99)	53 (0.89)	66.4 (0.91)	47.5 (0.87)	60 (0.94)	39 (0.87)	58 (0.91)
H30 正答率の全国比			(0.97)	(0.86)			(0.91)	(0.83)	(0.88)

◎1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「H30正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2)学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

1年生においては、国語・数学ともにほぼ県平均である。国語の「語句に関する知識」、数学の「考え方」が落ち込んでおり課題である。また、国語・数学ともに要努力の生徒割合が高く、今後の支援が必要である。

2年生においては、国語が全ての観点で県平均を上回り良好な結果である。数学でも県平均を上回り良好な結果であるが、「見方・考え方」に課題があるとともに要努力の生徒割合も高く、今後の支援が必要である。

3年生においては、主として知識に関する国語Aはほぼ県平均だが、国語B、数学A・B、理科において県平均を下回っており、特に、活用に関するB問題は、無解答率も高く、取り組むべき大きな課題である。

意識調査の結果より、学習に関しては良好な結果が得られたが、生活面において、特に、テレビやビデオ、を見たり、ゲーム、インターネットを利用したりする割合が高く、また、利用時間も長く大きな課題としてとらえている。更に、地域行事に多くの生徒が参加しており、地域への関心、関わりが高い結果が得られた。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・活用力向上研究の中で、授業を振り返りから始めそれを生徒が説明する授業、説明・話し合い活動を適切に取り入れた授業スタイルの研究を進め、生徒の活用力向上を図る。
- ・西部型の授業スタイルを取り入れ、生徒が見通しを持てたり、学習した内容を理解したりしやすいように「めあて」の立て方や「まとめ」「自己評価」を工夫する。
- ・電子黒板やタブレット端末などのICT機器の利活用をすすめ、指導方法の工夫改善を進める。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・全校で統一した学習規律の定着を図り、落ち着いた学習雰囲気づくりを行う。
- ・家庭学習時間調査を随時行い、結果を掲示したり、学年・学級通信で発信したり、個人懇談の資料として提示したりして、生徒だけでなく家庭への周知を行い、家庭学習の在り方の改善を進める。
- ・テスト勉強の取り組み方指導や自主学習ノートの取り組みを進め、自分にあった学習方法の確立を図る。
- ・生活の様子をふり返らせたり、タイムマネジメントをしたりして、家庭での時間の使い方、ゲームやインターネット、スマートフォン等の利用について考えさせる。